

カルシウム剤散布による「津之輝」のこはん症類似果皮障害発生の軽減

カルシウム剤を散布することで、こはん症類似果皮障害の発生を軽減できます。

背景・目的

- 「津之輝」は、毎年、こはん症類似果皮障害の発生が見られます。
- 果皮障害対策として一般的に行われている果実保護資材（サンテ）の被覆、カルシウム剤散布による果皮障害発生軽減効果について検討しました。

成果の内容

- 果皮障害は、着色が始まる10月上旬頃からみられ、着果方位による発生の差はありません（表1）。
- 果実保護資材（サンテ）による発生怪訝効果は、明確な差がみられません（表2）。
- カルシウム剤を7月から11月にかけて5回散布することで、発生を軽減することができます。



写真1 「津之輝」の果皮障害（着色後）

表1 着果方位別の果皮障害発生割合

方位	果皮障害果率 (%)	
	2018年	2019年
東	5.0	15.0
西	30.0	20.0
南	10.0	20.0
北	20.0	0.0

表2 果実保護資材（サンテ）被覆が果皮障害発生に及ぼす影響

区	果皮障害果率 (%)	
	2018年	2019年
果面保護資材処理区	10.0	0.0
無処理区	10.0	20.0

表3 カルシウム剤散布が果皮障害発生に及ぼす影響

区	果皮障害果率 (%)	
	2018年	2019年
バイカルティ処理区	0.0	0.0
スイカル処理区	5.0	—
無処理	15.0	20.0

成果の活用方法(又は期待される効果)

- カルシウム剤を7月から5回散布することで、「津之輝」の果皮障害発生軽減が期待できます。
- 普及対象地域 県内の「津之輝」生産者 栽培地域一円

留意点

- 特になし。

関連研究成果カード：2022年度後期 番号11

関連事業名：温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術と新たなカンキツ品目探索（県単）

研究期間：2018年～2019年度